

WHO ファクトシート

5 - 14 歳の子どもの死亡率

Mortality among children aged 5-14 years

2019 年 9 月 23 日 (新設)

重要事項

•2018 年には 5～14 歳の子ども 90 万人が死亡しました。この年齢層では 1 日約 2,500 人が死亡していると推定されています。5～9 歳の年長児の死亡率は、10～14 歳の年少青年よりも高くなっています。

•1990 年から 2018 年にかけて、5～14 歳の子どもの死亡率は 53%低下し、死亡者数は 170 万人から 46%減少しました(年間 90 万人に)。

•現在のままでは、5～14 歳の子ども 9800 万人が、2019 年から 2030 年の間に死亡します。これらの推定死亡数のほぼ 80%は、サハラ以南のアフリカ(580 万人)と南アジア(200 万人)で発生します。

•早産、分娩時の合併症(出生時仮死や無呼吸など)、感染症および欠損などが新生児死亡原因の大部分を占めます。

•外傷(交通外傷、溺水、熱傷、転倒など)は、年長児や青少年期の死亡や永久的な障がい の主な原因です。この年齢層での感染症は 2000 年以降減少しています。

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Mortality among children aged 5-14 years

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/mortality-among-children-aged-5-14-years>